

# 前半戦 共産党躍進! 県議2人、福岡市議7人当選

**県議**

山口りつ子(若松)、  
たかせ菜穂子(小倉南)

**市議**

わたぬき英彦(東)、ひえじま俊和(博多)、星野みえ子(中央)、堀内てつお(南)、倉元たつお(城南)、中山いくみ(早良)、熊谷あつ子(西)

いつせい地方選・前半戦の結果について

いつせい地方選挙前半戦(県知事・県議・福岡市議選)は12日、投・開票され、福岡県議会・市議会で日本共産党が大きく躍進しました。知事選は、無党派弁護士の後藤とみかず氏(日本共産党支持)が善戦健闘しましたが、及びませんでした。

県議選では、北九州市若松区(定数2)・山口りつ子、小倉南区(定数3)・たかせ菜穂子の2氏が当選、前回失った県議会議員の空白を克服しました。

市議選では、東区・わたぬき英彦、博多区・ひえじま俊和、中央区・星野みえ子、南区・堀内てつお、城南区・倉元たつお、早良区・中山いくみ、西区・熊谷あつ子の7氏全員が当選。政令市移行後、初の7区7人全員当選を果たし、議案提案権を獲得しました。投票率が低下するなか、県議選・市議選とも、日本共産党は全体として得票数・得票率とも伸ばしました。

ご支持ご支援いただいたすべてのみなさんに心より感謝申し上げます。

前半戦全体の論戦を通して日本共産党は、「安倍暴走政治ストップ! 『戦争立法』反対」を大きく掲げ、安倍暴走政治からくらしと平和をまもる地方政治への転換を、

強く訴えました。この訴えは、かつてなく広範な有権者の共感・期待を集めました。

加えて、県議選の論戦では、12人の候補者を先頭に「共産党県議が、いるといたい」とでは大違い」と訴え、県民の声を届ける活動でも、県政のチェック機能でも、議会改革でも、党のかけがえのない役割を浮き彫りにし、「自公民『オール与党』独占県議会に風穴を」と訴えました。

福岡市議選の論戦では、入院医療費無料化を中学3年まで拡充させ、すべての小中学校にエアコンを設置させるなど、くらしをまもる党市議団の抜群の実績を軸に、くらしに冷たく大型開発の浪費に明け暮れる「オール与党」市政をきびしく告発し、市政の転換を訴えました。

一昨年の参院選、昨年の衆院選に続く、今回前半戦での日本共産党躍進は、安倍暴走政治に対する明確な審判です。この結果は、地方政治でも「自共対決」が、政治の『本流』となったことを裏付けました。

日本共産党福岡県委員会は、掲げた公約の実現、26日の後半戦(一般市・町)での県内41氏全員勝利めざして全力で奮闘する決意です。

福岡市議は政令市移行後、**獲得**初の全区当選で議案提案権

◆日本共産党 当選者の顔ぶれ◆

<b>県議会議員 (空白克服)</b>	
 北九州市若松区(定数2) <b>山口りつ子</b>	 小倉南区(定数3) <b>たかせ菜穂子</b>
<b>市議会議員 7区7人全員当選</b>	
 城南区(定数6) <b>倉元たつお</b>	 東区(定数12) <b>わたぬき英彦</b>
 早良区(定数9) <b>中山いくみ</b>	 博多区(定数9) <b>ひえじま俊和</b>
 西区(定数8) <b>熊谷あつ子</b>	 中央区(定数7) <b>星野みえ子</b>
	 南区(定数11) <b>堀内てつお</b>